

ユビキタスネット社会の実現に向けた政策懇談会基本政策WG（第3回）議事要旨

1 日 時

平成16年5月18日（火） 10時00分から12時00分

2 場 所

総務省10F 1001会議室

3 出席者（敬称略）

（1）構成員

村上輝康（座長）、伊藤泰彦、高橋秀明、田邊忠夫、濱田純一、上田正尚（林正代理）、福井省三、前田裕、村上篤道、山口光雄、神崎洋（渡邊浩之代理）

（2）総務省

松井総務審議官、鈴木政策統括官、桜井審議官、吉崎総合政策課長、坂巻情報通信政策課長、黒瀬総合政策課調査官、今川総合政策課課長補佐、高地総合政策課課長補佐

4 議 題

（1）これまでのIT産業WG及び利用環境WGにおける議論の概要

事務局より「資料1 これまでのIT産業WGにおける議論の概要」、「資料2 これまでの利用環境WGにおける議論の概要」、「参考資料1 麻生議員提出資料（経済財政諮問会議資料）」について説明があった。

特に「参考資料1」については、e-Japan戦略とu-Japanとの違いは、第一にu-Japanが特に無線などを中心に「いつでも、どこでも、誰でも」という色彩が強いこと、第二にe-Japan戦略が内閣の取り組みであるのに対し、現時点におけるu-Japanは総務省のネットワーク政策が中心であること等についての説明があった。

（1）に対して、各構成員より以下の意見が出された。

WG3の「情報倫理」に関して、憲章という形で整理するとすれば、特に、やってはいけないことについて、もうすこしメリハリをくっきりさせて良いのではないか。

（2）ユビキタスネット社会で解決可能な課題の選定及び重要ソリューションについて

事務局より「資料3 ユビキタスネット社会で解決可能な課題の選定について」、「資料3-2 ユビキタスネット社会で解決可能な課題（一覧表）」、「資料4 ユビキタスネット社会の重要ソリューション（一覧表）」、「資料4-2 ユビキタスネット社会の重要ソリューション（詳細）」、「参考資料3 解決すべき優先テーマ」について説明があった。

（2）に対して、各構成員より以下の意見が出された。

6ページにある「ホワイトカラーの生産性の向上」とその課題の内容が一致していない。

創造的活動や協業支援が主眼であるならホワイトカラーという言葉を使わないほうがよいのではないか。

まとめる時には生活者の視点というものが後退してしまわないようにするのが重要。

アンケートを基本に進めていくと、ある程度抜け漏れも出てくる部分もある。基盤という意味からコンテンツ流通が重要。

マシンリーダブルであるということが重要、例えばセマンティック・ウェブ。システムの相互運用性やコードの統一などが大事になってくる。また著作権についても、現在は、誰が著作権を持っているか、簡単に調べることができない。こういったことを実現するためにもコンテンツ流通の基盤作りが重要である。

ユビキタス社会では、マイクロペイメントのメカニズム、すなわち、認証と決済の基盤作りが不可欠である。

コンテンツ流通の他にも認証のプラットフォームなどの相互接続が重要な課題のひとつ。

資料4のように共通する課題なり、技術の階層分けのようなものをある程度やっていった方が、何に取り組むべきか、ユビキタス社会では何を目指すのかが見えやすくなる気がする。

(3) 中間取りまとめ(骨子)素案

事務局より「資料5 中間とりまとめ(骨子)素案」について説明があった。

(3) に対して、各構成員より以下の意見が出された。

高齢者や障害者という視点だけではなく、若い人たちがどんなに楽しく、感動してやっていける世の中になるかという視点が不足。ウエイトをどのくらい置くかについての問題は別にしても、豊かな人間関係や井戸端会議、コンテンツ・文化・芸術などの分野を強化することが必要。

セキュリティ、プライバシー、DRMやマイクロペイメントなどについては、分野別のソリューションに共通のインフラとして考えていくこともありえるのではないか。

「e」はグローバル性が非常に高いのに対し、「u」は生活者視点・生活密着型が重要視されるべき。例えば文化などは重要。

u-Japanは、人間と技術の間のストレスがないというイメージ。新たなパラダイムシフトは何なのかというところを洗い出してユビキタスネットの固有の性格を明確に書けないか。

政策の基本哲学の部分については、やはり最初にあるべき姿があり、ソリューションを考
えるというやり方が必要。また、ソリューションを実現すれば「こういう世の中になる」
又は「こういうメリットがある」ということを書く必要もあるのではないか。

物流システムの効率化が解決が期待される課題として取り上げられてはいるが、ユビキタ
スネット社会における課題は、国民視点から見れば、もっと広く捉え、物流も含めた「持
続可能、安全な交通システムの形成」を取り上げるのが適当ではないか。

課題について質問されると、普通はマスト (m u s t) の方を考えて、ウォンツ (w a n
t s) の方は考えない。2010年にこういうものは解決されているとして、あなたは何
がほしいですか、という設問なら夢の部分がもっと出てくるのではないか。

コンテンツは山ほどあるけれども、何を使っていいかわからないし、どれを生かして、自
分の生活なり、啓発なりに役立ててよいかかわからない実態がある。

多様性を認めるという意味には、ある部分、リスクも許容するということも含まれるので
はないか。但し、それが制御可能であることは必要。

緊急性の高い課題は「交通」。

以上